

平成20年度第2次新まちづくり計画事業進行調書(その1)

計画体系コード	4-2-3		事業名	焼却灰リサイクル可能性調査		
担当	環境局環境事業部施設管理課 讃岐 211-2922					
全体計画						
事業内容	最終処分場の延命化を目指して、ごみを燃焼したあとに発生する焼却灰をセメント原料等として再利用することが開発されつつあるので、焼却灰のセメント化事業実施に向けた課題を整理する。			<年度別の事業内容>		
				焼却灰リサイクルの試験を各年度で実施する。 平成20年度 目標リサイクル量: 100トン 平成21年度 目標リサイクル量: 1,000トン 平成22年度 目標リサイクル量: 1,000トン		
事業内容・量・場所・規模・件数等	平成19年度事業内容(決算)			平成20年度事業内容(予算)		
	/			焼却灰のセメント化などのリサイクルを試験的に実施し、本格的な事業実施に向けて見通しを立てる。		
達成目標の状況						
項目	18年度末 (現状)	19年度末 (実績)	20年度末 (予定)	21年度末 (予定)	22年度末 (予定)	22年度末 (目標)
[焼却灰のセメント原料への再利用]事業実現性評価	-	-	-	-	実施	実施
[参考] 焼却灰リサイクルの事業化見通しを立てるために試験を実施する	-	-	100トン	1,000トン	1,000トン	1,000トン
市民・企業等との協働の状況(市民・企業等の参加、支援、協力の状況)						
市民との連携、市民参加 企業等との連携・協働 [資金協力]- [人材協力]- [情報協力]- [その他の協力]- 市民・企業等が参加しやすい環境づくり 焼却灰を民間セメント工場でセメント原料として再利用するため、企業との連携・協働が伴う事業である。						

平成20年度第2次新まちづくり計画事業進行調書(その2) (単位:千円)

計画体系コード	4-2-3		事業名	焼却灰リサイクル可能性調査		
評価(成果)			課題			
現在、埋立処分している焼却灰をリサイクルし、埋立地の延命化を図ることと、資源として有効活用を行う。			セメント原料としての再利用は、札幌市周辺に事業所が無い ため、主として遠隔地にて実施されることから、焼却灰の運搬形態 (出荷体制、受入体制などを含む)の検討や、重金属類の安定化 などについての検証が必要である。 また、運搬・処理に伴うコストについて検証が必要である。			
今後の事業の予定・方向						
焼却灰のセメント化などのリサイクルを試験的に実施し、リサイクル費用と埋立処分費用との費用対効果を検証するとともに、埋立地の延命化及び造成費・用地取得費の削減にどのような効果をもたらすかを分析する。 良好な結果が得られれば、焼却灰のセメント化事業の本格実施を目指す。						
事業費の推移						
項目		19年度	20年度	21年度	22年度	計
計画	事業費	-	-	-	-	-
	財源内訳					
	国・道支出金					
	市債 その他 一般財源					
予算	事業費	0	3,000	-	-	3,000
	財源内訳					
	国・道支出金	0	0			0
	市債 その他 一般財源	0	0			0
実績	事業費	0	-	-	-	0
	財源内訳					
	国・道支出金	0				0
	市債 その他 一般財源	0				0
事業費の進捗率		(19年度実績事業費 + 20年度予算事業費) / (計画事業費)				-
計画との差異(予算・事業内容・規模・時期等)						
(全体)						
[19年度]						
[20年度]						